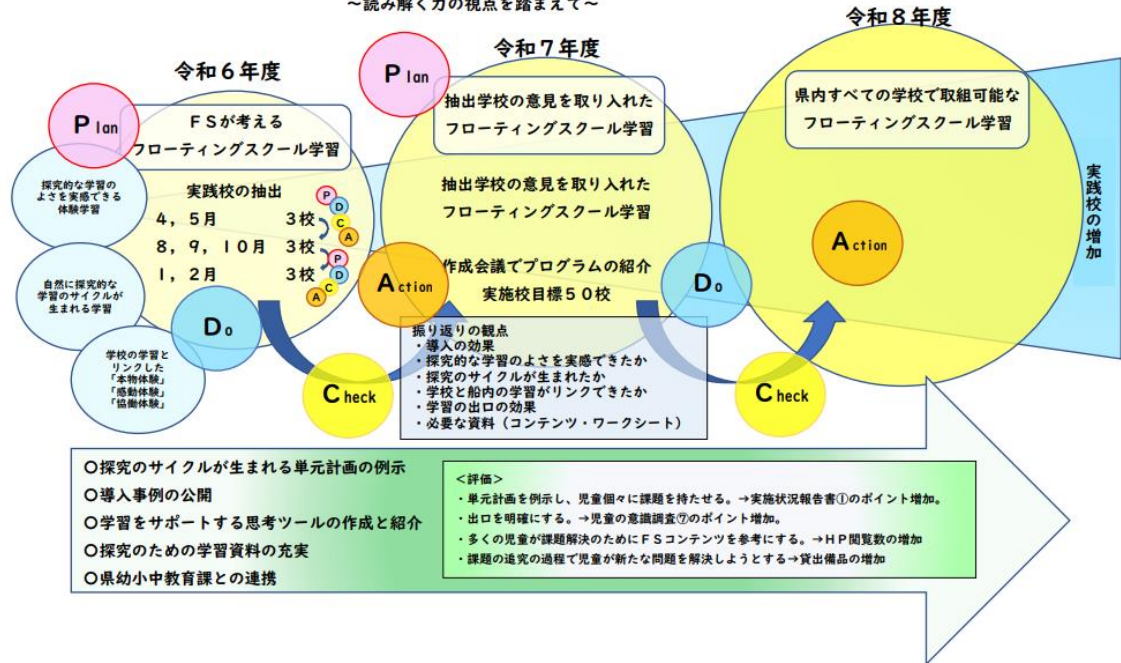
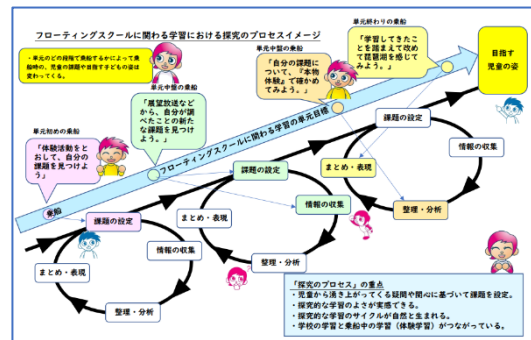


探究的な学習のよさを実感できるフローティングスクール学習の創造
～読み解く力の視点を踏まえて～



令和6年度から、新たな研究3か年に取り組みしていきます。研究テーマは、「探究的な学習のよさを実感できるフローティングスクール学習の創造～読み解く力の視点を踏まえて～」とし、フローティングスクールを利用した、どの学校でも実践可能な学習プログラムを開発、改善していきます。このプログラムは、「びわ湖」というキーワードに対して、「子どもたちから湧き上がってくる興味や関心」が多岐にわたることを予想し、学習課題(=専門家)を14に分けています。一人ひとりの子どもたちが、タブレットを使いながら自分が興味を持ったことを「びわ湖会議を開く」という目標に向け調査を進めます。この学習にかんしては、以下の工夫をしました。

- 各課題はステップ1の「びわ湖のよさを見つけよう」、ステップ2の「問題点を考えよう」、ステップ3の「解決策を考えよう」から構成し、探究的な学習のプロセスを意識したものとしました。
- 課題ごとに「ロードマップ」を作り、子どもたちが学習を進める方向付けをしました。
- 「ロードマップ」上の単語にその言葉に関するリンクを貼り、子どもたちが資料を探す時間を短縮できるようにしました。
- 「ロードマップ」上に、「うみのこ」乗船の時期を表記できるようにし、乗船時の課題を考えやすくしました。
- 「ロードマップ」の小さな課題にチェック欄を設け、子どもや教師が学習の進み具合を確



認しやすくしました。

- ・課題ごとに「予想される児童の反応」を作り、教師のアドバイスや次時の準備をしやすくしました。
- ・課題ごとに、関係する機関、連携できる内容、条件等を示す表を作成し、関係機関との連携をしやすくしました。
- ・県の統計課からいただいたデータを子どもたちにわかりやすく加工し、公開しました。
- ・振り返りの例を作成し、最後に学習が深まるように工夫しました。



初年度は、この単元の全部、またはほんの一部でも実践していただくよう学校に依頼し、フィードバックを受け、計画やワークシート、学習動画など改善していけたらと考えています。

すでに、「専門家になって『びわ湖会議』を開こう」単元例を作り、学習に使うワークシートとともにホームページ上に公開していますので、ご活用ください。